



城山自治振興会

横山 卓司

地方分権の推進により、自治体を取り巻く環境も様変わりしつつあります。
こうした中、町村合併を目前にした九月三十日城山自治振興会を立ち上げ、「自らが活力ある住みよい地域づくり」を目標に当面、運動広場の整備・防災防火訓練・グラウンドゴルフ大会・農作業の共同化等各部会の主体的な活動を充実させることが、振興会の基盤づくりと考えています。

紹介します

— 31自治振興会 —

“人と自然が輝く高原のまち”
神石高原町がスタートし1カ月が経ちました。こうした中、地域づくりのかなめ“自治振興会”も活動を始めています。

31の自治振興会の会長さんに地域の特性や今後の取り組みなど聞いてみました。



いちば自治振興会

佐伯 嘉昭

いちば自治振興会は、商工業者と一般住民の混住世帯で形成され、考え方もさまざまです。従来の四行政区が一つの振興会を形成したので、コミュニケーションも希薄です。住んで良かったと言える町づくりはまず連帯意識の醸成からだと考えています。そのためこの住民組織が、今後、どのような自治振興会を目指して進むか現在模索中ですが、人と自然の輝く“いちば”づくりを推進していきます。



西油木自治振興会

川上 忠志

自治振興会の役目は、少子高齢化・過疎化により地域社会の機能が低下しつつある状況下、住民の意見や要望を行政に反映し、一方では自らの意思と責任による個性的な地域づくりを進めるのが役目であると考えます。
私達の振興会では、四部会を設け現段階では細部にわたっての活動計画は検討中ではありますが、まず、地域の住民意識を一つにする事を目的に、若者を中心に将来に向かって明るい灯を燈そうと地域の中心地に大きなイルミネーションを点燈しスタートしました。

東油木自治振興会

森上 忠後



東油木自治振興会は、「細田」「出佐」「岩貝」「宗兼」の行政区で成り立ち、今日まで東油木活性化協議会のもとで、三世代交流グラウンドゴルフ、視察研修、「新年会」等親睦をはかり、また各地域ごとでの「盆踊り」、四季を通しての花見行事等、多くの交流を重ねて来ました。今後、少子高齢化が進む中で、これらを継承しながら互助の精神と、お互いの英知を出し合い、自然環境を生かした地域づくりを推進して行きたいものです。

南ゆき自治振興会

山本 剛久



旧油木町のシンボル権現山の東裾に位置する南ゆきは、国道一八二号と県肉用牛改良センターに抱かれ、馬塚古墳にみられるように弥生時代から人々の生活の場であった地域です。長い歴史と先駆の伝統は、新しいまちづくりにかける熱意の源となっています。そのお手伝いが私には、「荷が重い」と言う感じもありますが、微力を尽くすつもりであります。

安田自治振興会

谷川 角三



安田自治振興会は、人口三六三人高齢者六十歳以上約五〇%の状況にあり、少子高齢化の現状で自治振興会を推進するには、一人ひとりの自覚と安田が置かれている状況の認識が重要だと思います。

一、若い者の定住出来る環境づくり「職場提供」

一、高齢者に対する福祉施設の充実「特定非営利法人、高齢社会を生きる会」設立を目ざす。

そういった環境整備の中で活気ある安田づくりをしたいと思っています。

小野自治振興会

前原 弘臣



小野自治振興会は、小野ふる里づくりの精神を引き継ぎ、住民全員「子どもから大人」を会員として組織しています。先輩方の長い活動により、組織体制や活動の内容は、定着しています。それを今回、自治組織として再スタートしました。今後は、自治振興会として最良の活動を検討しながら、成熟した振興会になることを願っています。ここで少し、地区の紹介をしますと、元旦の初日の出をみる会、ふる里交流の夕べ、小野地区ふる里祭・敬老会は、全て手づくりです。どれも歴史を持った行事の一つです。



新坂自治振興会

津村 博巳



神石高原町誕生に伴い、自治振興会が設立され、会長の重責をお受け致しました。新しくスタートした自治組織で問題点も多くあると思われますが、行政との窓口として住民との連携を密にしていきたいと思っております。

我が地域では、平成九年六月に受託センターを設立し農用地利用改善組合ニューファーム新坂の名称で地域の農業振興に活躍し、今年油木地域で初めての農事組合法人を設立しました。地域住民が心配している周辺地域の問題や、行政が遠くなる等の不安もありますが、行政と連絡体制を強固にして、地域住民の要望に応え新町のまちづくりを進めていきたいと思っております。

仙養東自治振興会

平元 行信



高齢化の進む中で自治振興会の設立はしたものの、中には回覧さえまわらない地区もある中での運営は、困難な場合があります。高齢者の健康とコミュニケーションの維持が、一番の課題だと思います。もうひとつ耕作放棄による農地の荒廃が深刻になっていきます。

いずれも一刻の猶予もありません。地域の方々の知恵を頂きながら地域づくりを進めていきたいと思っております。

仙養西自治振興会

清川 満



振興会の設立は出来たものの、仙養地区は平成十七年三月末まで今の体制で運営されてます。

高齢化社会の中で地域をどう守っていくか、特に役職の簡素化など各班の負担軽減が必要だと思います。多くの検討課題があると思いますが、役員会を重ねて一つ一つ具体化していきたいと思っております。皆様のご協力をお願い致します。

牧自治振興会

秋山 軍次



牧地域は、平成十二年よりコミュニティ組織「五和会」を立ち上げ活動し、二年前その中に地域づくり研究部を設け、企画環境・産業文化・福祉教育の専門班で水車づくり、農業法人設立案、老人福祉等、各班とも実行に向けて進めています。恵まれた自然と人材を生かし、住民自らが知恵と汗を絞る、誰もが楽しく幸せに笑顔で暮らせる地域をめざし活動します。

草木自治振興会

岡崎 武志



神石高原町の新たな町づくり構想である「人と自然が輝く高原のまち」の実現を目指すためには、地域住民全員参加による町づくり・地域づくりに取り組む必要があります。高齢化・少子化といった厳しい現実のなかにある草木自治振興会ではありますが、自然にあふれ素晴らしい地域文化があります。これらを大事に維持・継承することにより、人々とのふれあいや支えあいで地域の維持活性化を目指して行きたいと考えています。住んで良かったと言われる草木地域をめざします。また、福井川マスつり大会を復活させ、農村と都市の人達とのふれあいで地域活性化につながればとの思いで取り組みを始めました。

福永自治振興会

寺田 暢之



我が福永自治振興会（福永和泉会）は発足後一年が経ちました。福永地域には農業と商業という二つの大きな地域資源がありますが、私たちは、先人が築いてこられた歴史と、こうした貴重な資源をもとに、地域の独自性を活かした地域づくりに住民の皆さんの英知を結集し、強い自治振興会を創ることが責務と考えています。住民主体の地域づくりに取り組むことが、心豊かですまよい社会の構築につながり、また福永自治振興会の発展につながると考えています。

田頭自治振興会

藤井 仁士



五月に田頭自治振興会が発足し、二十二名で研究班を設け毎月一回自由な発想で田頭の将来について知恵を出し合い、十六年度でまとめ十七年度に実践する計画です。住民全員参加の為に、健康が第一条件です。EM自然農法で自分が食べる物は自分で作る、食べて健康になり環境も良くなる循環型社会を目指し努力する事が今一番求められる事と思います。

高光自治振興会

黒田 昇



高光では昭和四十年代学校統合により小学校・中学校と相つぎ姿を消しました。が、町によって小学校跡地に老人集会所が建築され地域コミニティ作りの拠点となっています。平成十四年高光会を結成し、総務・コミニティ・福祉・体育の部会を中心に活動をしています。特に今年は高光の古今を後世に伝えるべく記念誌「高光」を発刊し地域内外より好評を博しています。



古川自治振興会

伊勢村春行



昨年組織した古川地域づくり研究班では、地域づくりマップをもとに古川を自分の足で歩き三回の行事を行ってきました。その他に古川地域は、昭和六十三年に地区社協を設立して、健康推進委員による手造りおせち料理を一人暮らしのお年寄りの家に配食するなどのコミュニティ活動を約十七年間続けています。

地域づくりとは人づくりであると思っていますので、これからもみなさんからの感謝の言葉をはげみに、それぞれ地域の能力を引き出せる企画等考えて行きたいと思っています。

相渡自治振興会

秋中 良二



相渡には立派な自然と多くの遺産があり、それらを地域おこしに取り組んでいます。相渡八幡宮は約三百年前に建築されたもので、町の文化財指定を受け、専門家は国宝級とも言います。今年二回

目の「森のコンサート」では、遠くから大勢の方に来ていただき、今後も継続を考えています。その他運動会、盆踊り、区民の集いと、小学校が行っていた行事を区民と振興会が一緒に参加し、地域の元気が出ればと取り組んでおります。



永野自治振興会

城後 明



過疎高齢化になり、個別の家庭では対応できなくなってきました。様々な機能を地域で再編して不安のない豊かな生活を送る為の仕組が必要となっています。わが永野地域では旧永野小学校の

校舎を新たな地域づくり「支援拠点施設」なりの村」として都市と農村の交流を中心とした地域住民のコミュニティ活動の拠点として利用しています。

地域資源を活用した地域作り「幻の鍾乳洞」や手づくりの花面公園があります。今後この資源と住民パワーをもとにさらに地域の活性化を推進していきます。



南自治振興会

水 学



いよいよ神石高原町が発足しました。当分のあいだは旧町単位の間人間関係が重視されそうですが、一日も早く融和が図られることを願っています。若い人が定住しなくなった農村も超高齢化となり、今後農地などどのようにして守っていくのか、行政をはじめ住民一体となって対策を考えなくてはならないと思っています。課題の多い船出となりそうです。

上豊松自治振興会

井上 彰



度重なる設立準備会が行われ協議の末、総論賛成各論……で五里霧中の中、前途多難な航海へと旅立ちました。四つの専門部会に分けて今後



は部会単位で協議して運営する方向です。伊勢丘地区（福山市）の住民組織「さくらんぼの会」との交流にも力を注いでいき高齢化の進む中、荒廃地を無くして安心・安全に暮らせる「人と自然が輝く」地域づくりをめざします。

下豊松振興会

笹部 博幸



合併前より準備委員会を立ちあげ、元氣な下豊松地域を目指して住民からの意見等をとり入れながら協議をかさねてきました。九月二十五日「下豊松振興会」を設立し「共に支え合い安心して暮らせる地域づくり」を目標として頑張っています。豊松には全国でも一つしかない紙ヒコーキ・タワーがあり、自然にやさしいエコ紙を使つての大会も盛んに行われています。その他、名所旧跡も活用し楽しい地域にしたいと思っています。

笹尾振興会

毛利 文範



西は清流天田川、北は成羽川ダムを有する我がふるさと笹尾振興会は、本年三月末に地域の状況や今後の活動計画を決定し設立しました。その活動は、安全、安心な地域を目指すし、高齢家庭への週一回の「安否訪問事業」、「地域サロン」での交流、交通安全テント村など行っています。息の長い活動が出来るように、笹尾に住んで良かったと言える地域にしたいと思っています。



有木自治振興会

小坂圭一郎



有木自治振興会は神石高原町の東端に位置し世帯数一四五戸、人口四八一人の振興会で、高齢者の多い地域で周辺地のため行政サービスの下では当然の事とされます。一人ぐらし老人の福祉の問題、特に医療面について役員やボランティアの皆様の協力を得て、安心と安全な地域づくりに、取り組むと共に、伝統文化の継承に努めて参る所存であります。

井関大矢自治振興会

立原 忠義



私達井関大矢自治振興会は、今も迷いと戸惑いの中にあり、何をやるべきか、何が出来るか自問している最中です。地区の人達に井関大矢が好き、みんなで何かをしたいと思えるように今から知恵を出し合って、少しずつ前進して行きたいと思っています。

時安自治振興会

平田 行雄



昭和初期に設立した時安区民会と、平成八年に指定された地区社会福祉協議会の伝統を継承しながら、物的環境整備と精神的環境改善の両輪が、住民主体で調

和的に推進されるよう組織運営に意を注ぎ、一人ひとりが生かされ地域で承認される喜び・存在感・所属感が生き甲斐につながるよう、意識統一と実践統一をめざします。人づくりが地域づくりの根幹だと思います。



坂瀬川自治振興会

高浦 了完



坂瀬川自治振興会は、前身の坂瀬川区民会をそのまま継承していきます。少子高齢化の進む中で暗中模索の状態ですが、過去の活動を踏まえて町との連携を密にし、農産物の生産活動を中心に社会福祉の増進、生活環境の整備、地域文化の継承と保存、青少年健全育成等、分権社会を見つめ、より住みよい町づくり推進に努力します。

小島自治振興会

久吉 岩男



人口一、二五四名四一〇世帯。このビッグな大所帯が我が小島自治振興会です。このかじ取りを任された今の心境は、無免許の私にいきなり大型車の運転を命じられた思いです。しかしやっとながら振興会も役員体制が確立し、始動しはじめました。毎月、定期的に専門部会（約一〇〇名）を開き、会員の意見を集約し、アクションを起こしていきたい。まずは基盤づくりであると考えています。

上自治振興会

山下 祥二



恵まれた自然環境の中で、神石高原町の誕生によって、今までは違ったいろいろな形での出会いがあります。まずは、物づくりではなく人づくりを推進しておとしよりから子どもまで、一つ一つの出会いを大切にしながら、地域の皆さんがふれあい、わかちあう健康で心豊かな人づくり、信頼できる仲間づくりが出来ることを願っています。

高蓋自治振興会

佐伯 知省



わが振興会は、世帯数三〇〇戸、人口一〇〇〇人、班数十三と大所帯のため、振興会として統一的な活動計画を性急に行うことは、かえって地域の結束を乱すことが予測されるため、当面地域内の同好会等各種団体との協調を行い、住民全体の意見を十分反映し、時間をかけて長期的な活力ある地域づくりに、微力を注いでいきたいと考えています。

父木野自治振興会

森田 丈吉



合併と同時に広域化した社会制度のもと、これからは、IT社会となり情報の混濁の中で、迷路にまよい込む事態も考えられます。早く正しい情報キャッチの組織の確立には、従来から組織されている福祉協をベースにして、老若男女、子ども達、人それぞれの夢、希望、温めている構想を出しあって父木野に有る文化や先人達の知恵を守り、住民の納得のゆく、住民が安心して住める自治振興会を作って行きたいと思っています。

木津和自治振興会

岡本 信男



神石高原町は町の中では県一の高齢化率、住民意識が的確に中央に届きにくい、そこを協働補充するのも自治振興会の大きな設立意義であると思います。
農業基盤整備一連の仕事も一段落を見たものの高齢化が急に加速してきた木津和自治振興会は、この状況をしっかりと受け入れて、お年寄りも子ども達も幸せを感じて行けるように、価値観や立場を越えて、お互いに常に共通課題をもって、その目的達成に向けて励みたいと思います。